

平成 30 年 5 月 15 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03281

研究課題名(和文)「地域」映像の集合化による再帰的ソーシャル・デザインの研究

研究課題名(英文) A Study on the Reflexive Social Design through the Collection of "Regional" Images

研究代表者

原田 健一 (Harada, Kenichi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70449255

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：地域のMALUI連携の統合型データベース「にいがた MALUI連携地域データベース」のシステムの一部を更新し、また、映像データを追加し、現時点で約5万点の映像をサイトアップした。

本科研の報告書として原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社,313頁,2018年3月に刊行した。全20章のうち、研究代表者、ならびに分担者が13章分を、研究会で発表してもらった研究者が7章分を執筆した。研究成果を地域に還元するために、展覧会「村の肖像展」を2017年11月から2018年1月にかけて、新潟市ならびに金山町で開催した。

研究成果の概要(英文)：First, the system of Niigata MALUI Regional Database was partly updated, to which about 50,000 images has been uploaded. Second, as the research report of our project, Harada Kenichi and Mizushima Hisamitsu edited and published in March 2018 Hands, Feet, Eyes, and Ears: Practices and Studies on the Regional Image Archives. The anthology contains 20 chapters, 13 of which were written by the principal/co-investigators of our project and 7 of which by researchers who had delivered papers in our workshops. Third, in order to return our research achievements to the regional society, special exhibition Portraits of the Village IV was held from December 2017 to January 2018 in Niigata and Kaneyama.

研究分野：映像社会学

キーワード：デジタルアーカイブ 地域メディア 映像メディア MALUI連携 コミュニティ 文化資源 データベース 中間的コミュニケーション

## 1. 研究開始当初の背景

(1) アメリカ的なグーグルの戦略やEU的なオープンデータ政策など映像という文化資源の共有化をめぐるさまざまなことが行われ、また議論もされている。当然のことながら、こうした欧米の動向を紹介し、研究することも行われている。しかしながら、欧米でデジタル化による文化資源の共有化が大きく進められているのに、日本社会ではほとんど進展していない。これはなぜなのか。デジタル化というグローバルな展開のなかで、火急に実証的かつ実践的な研究をすることが求められている。

(2) 本研究は、2009年以來、継続的に調査研究が進められている新潟における地域映像アーカイブ・プロジェクトの実践的な研究の蓄積をもとに、なぜ、映像の共有化が進まないのか、さらには、どうしたら改善することができるのかを、社会実験によって明らかにしようとする。

## 2. 研究の目的

(1) この研究では、日常生活における映像、特にマスとパーソナルをつなげる、社会の中間的なコミュニケーションを支えるさまざまな「地域」コミュニティの映像を発掘し、研究をすることを通して、日常生活における私たちの社会的行為の役割や意味、それを支えている社会的文脈、その関係性、さらには社会的な記憶のあり方を、実証的に明らかにする。

「地域」という枠組み設定は、マス、中間形態、パーソナルの相互作用、相互補完性を明らかにするだけでなく、メディアがもつローカルとグローバルな関係性や、グローバルに同時多発的に展開し、構造化するメディアのあり方をも明確にするものである。

(2) 本研究では、具体的に「新潟」という一つの地域の枠組みを用いることで、地域のさまざまな機関の中間的なコミュニケーションというべき「地域」コミュニティに関連する映像を発掘・デジタル化したコレクションを中核とすることで、マス・コミュニケーションからパーソナル・コミュニケーションま

での全体像を捉える。そしてこれら地域メディアの情報(コンテンツ)を集約し、横断的に検索し、研究できるようにする。

(3) こうした日常生活世界の映像領域の全体を捉えることを通して、映像の社会文化資源としてのあり方を明らかにする。さらには、こうした映像を共有化するために、異なる地域の機関である、博物館、資料館、図書館、大学、産業界と提携することをMALUI連携というが、そうした大きな社会的な枠組み、システムを創出し、既存の社会システムの再構築という大きな社会問題と関わる。本研究は、単なる研究という枠では収まらない、大きな社会的動向のなかにあり、自らもそうした動向に荷担するという、社会実験的なアプローチをとる。

## 3. 研究の方法

(1) 地域のさまざまな機関と連携しつつ、映像を発掘、整理し、デジタル化をしてデータベースを作成しつつ、統合していくという地道な作業をベースにする。その上で、地域でのワークショップや展示会、上映会などを開催しつつ、さまざまな形で聞き取り調査を行うことで、日常生活世界における映像メディアのあり方を具体的な局面から明らかにする。

(2) 異なった機関と機関のデータとは、そのまま異なったジャンルのデータ群とデータ群と統合を意味するだけでなく、機関と機関との連携によるデータの統合を意味する。統合データベースの閲覧・公開にあわせ、今後の地域の関連機関のデータの統合がどういった社会的意味をもつのか、具体的な事例にもとにしながら、研究するために研究会、シンポジウムを行い、その問題点を議論する。

(3) こうした議論を、新潟を中心にしながらも、今後は夕張、神戸などの地域と連携し、各地域を比較し、地域と地域との共通性と差違を明らかにする予定である。

## 4. 研究成果

(1) 2017年3月より、統合型データベースのサイト「にいがた MALUI 連携地域データベース」として、新潟県立図書館と協力し

戦前期の地域新聞をデジタル化し「郷土新聞画像データベース」を立ち上げた。このデータベースは、「地域」コミュニティに関連する映像を発掘・デジタル化した新潟大学地域映像アーカイブの「にいがた 地域映像データベース」と統合されており、地域メディアのコンテンツを集合化し、横断的に検索できるためのシステムを構築し、2017年度においては、システムの一部更新、ならびにデータを追加し、現時点で約5万点の映像をサイトアップし、地域機関とのMALUI連携による公開を促進した。

- (2) 研究成果を地域に還元するための展示として、「村の肖像展□」2017年11月17日～12月10日に新潟市・砂丘館など、2017年12月22日～2018年1月14日に金山町・中央公民館などで開催。「新潟市無形文化財 市山流 と新潟古町花街」を2018年3月17～31日に新潟市・旧齋藤家別邸などで開催。調査ならびに教育利用のためのワークショップを2017年7月6日に南魚沼市塩沢公民館、小学校での授業ワークショップを2018年3月7日に新潟市東曾根木小学校で開催。
- (3) 本科研の報告書として原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社,313頁,2018年3月に刊行した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- (1) 原田健一「占領期における遭遇と記録—アメリカ公文書館所蔵の映像群をどう捉えるか—」『昭和のくらし研究』,15号,5～17頁,2017年5月
- (2) 原田健一「地域の映像とは何か - ローカル局のドキュメンタリー映像の文化的、社会的文脈とその問題」,『マス・コミュニケーション研究』92号,3～21頁,2018年1月
- (3) 水島久光「地域映像アーカイブの構築と活用に関する課題：北海道・夕張市の事例から」『デジタルアーカイブ学会誌』1,創刊準備号,96～98頁,2017年7月

〔学会発表〕(計 3 件)

- (1) 原田健一「新潟のメディア文化」日本マス・コミュニケーション学会(シンポジウム)2017年6月18日、新潟大学附属図書館ライブラリーホール(新潟県西区)
- (2) 原田健一,水島久光「地域と映像アーカイブ」神戸大学地域連携事業「映像を媒介とした大学とアーカイブの地域連携」・新潟大学地域映像アーカイブ研究センター(シンポジウム)2018年3月4日、神戸映画資料館(兵庫県神戸市)
- (3) 北村順生「地域デジタル映像アーカイブの教育活用に関する実践的研究」デジタルアーカイブ学会(個人研究発表)2018年3月10日、東京大学法学政治学系総合教育棟(東京都文京区)

〔図書〕(計 12 件)

- (1) 原田健一「『可能現実存在』としてのデジタル・アーカイブの作法 新潟大学地域映像アーカイブ映像データベースと新潟県立図書館郷土新聞データベースの統合をめぐる実践と研究」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社,38～52頁,2018年
- (2) 原田健一「『コミュニティ』の映像—地域・メディア・研究をつなぎ直す—」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社,164～182頁,2018年
- (3) 原田健一「工房としての荻野茂二 - 多産な映像器械の産出構造」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社,241～250頁,2018年
- (4) 水島久光「ソーシャル・デザインとしてのデジタル・アーカイブ」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社,2～14頁,2018年
- (5) 水島久光「ゆうばりアーカイブがつなぐもの—地域映像アーカイブの構築と活用に関する課題」原田健一・水島久光編

- 『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 54～69 頁,2018 年
- (6) 水島久光 「荻野茂二と「映画」との距離について」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 285～296 頁,2018 年
- (7) 佐藤守弘 「郷土を調べる子どもたち - 『北白川こども風土記』におけるアーカイブする実践」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 216～233 頁,2018 年
- (8) 北村順生 「デジタル映像アーカイブを活用したワークショップの試み」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 202～215 頁,2018 年
- (9) 北村順生 「近代都市と労働者へのまなざし - 荻野茂二と能勢克男の場合」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 270～277 頁,2018 年
- (10) 石田美紀・キム・ジュニアン 「教育と研究におけるアニメ中間素材のアーカイブ化」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 123～142 頁,2018 年
- (11) 榎本千賀子 「『村の肖像』制作の現場から：福島県大沼郡金山町における映像アーカイブ構築」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 143～163 頁,2018 年
- (12) 榎本千賀子 「欲望の居所をつくる - 荻野茂二とオギノ 8 ミリ教室」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』,学文社, 251～261 頁,2018 年
- (13) 佐藤守弘 「写真と仏像の近代——ほとけの作品化と商品化」堤邦彦・鈴木堅弘編『俗化する宗教表象と明治時代—縁起・絵伝・怪異』,三弥井書店,261～280 頁,2018年

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 出願年月日：  
 国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 取得年月日：  
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「にいがた MALUI 連携地域データベース」

<http://arc.human.niigata-u.ac.jp/malui/>

より、下記の二つのデータベースに入ることができる。

「にいがた 地域映像アーカイブデータベース」<http://arc.human.niigata-u.ac.jp/db/>

「新潟県立図書館 郷土新聞画像データベース」

<http://niigata-press.human.niigata-u.ac.jp/wy/shinbun/>

「にいがた MALUI 連携地域データベース」は連携している関連機関でのみ閲覧が可能である。ただし、「にいがた 地域映像アーカイブデータベース」は研究用の閲覧については、申請（ID とパスワード）すれば閲覧が可能である。2017 年度はシステムの更新、ならびに約 2 万点の写真などのデータを追加し、サイトアップを行った。

なお、「新潟県立図書館 郷土新聞画像データベース」の高精細の完全版は、新潟県立図書館と新潟大学附属図書館で閲覧できる。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原田 健一 (Harada Kenichi)  
新潟大学・人文社会科学系人文学部・教授  
研究者番号：70449255

(2)研究分担者

水島 久光 (Mizushima Hisamitu)  
東海大学・文学部・教授  
研究者番号：30366075

(4) 研究分担者

佐藤 守弘 (Satou Morihiro)  
京都精華大学・デザイン学部・教授  
研究者番号：10388176

(4)研究分担者

北村順生 (Kitamura Sumio)  
立命館大学・映像学部・准教授  
研究者番号：20334641

(5)研究分担者

石田美紀 (Ishida Minori)  
新潟大学・人文社会科学系人文学部・  
准教授  
研究者番号：70425007

(6)研究分担者

榎本千賀子 (Enomoto Chikako)  
新潟大学・現代社会文化研究科・研究  
員  
研究者番号：80710384